

話題 其の56: “Healing Touch (癒しの手)”

帰国まで40日を程度になりました。「そろそろ3年間のまとめを始めよう」と思いつつ、ビデオ教材製作に没頭して一向に進みません。今回は私の業務の一部を紹介します。

—ビデオ製作の背景—

UNRWA のアンマン職業訓練センターでは、2004年9月に日本政府の援助を受けて、看護師育成訓練コース(高卒2年間訓練)をスタートする予定です。

その目的は、ヨルダンに居住するパレスチナ難民子女の雇用機会の拡大であり、ヨルダン国内の看護師不足対策でもあります。現在、ヨルダンの看護師不足は深刻で、フィリピンなどからの外国人看護師の雇用実態がその現実を裏付けています。

また、1991年の湾岸戦争時に、湾岸諸国で就業していたヨルダンからの医療関係者(ヨルダン国籍を持ったパレスチナ人を含む)が政治的な理由(ヨルダンがイラクを支持)によって帰国させられたことから、優秀な医師などがヨルダン国内の医療機関で雇用されはじめました。

結果、近年の現象としてサウジアラビアなど近隣諸国からの顧客(患者や人間ドック受診者? = 金持ち)を当て込んだ病院建設が進み、看護婦不足を一層深刻にしています。

その他にもヨルダンでの看護師不足の問題は、次の様な要因が考えられます。

1) 劣悪な看護師への待遇

ヨルダン国内の病院に於ける看護師の待遇は残業手当も付かず、勤務ローテーションも厳しく、給料面でも決して満足のいくものではなく「危険で、きつく、汚い」3K職種とのイメージが強いのです。これらは看護師の就業や定着意欲を低下させ、若者等の看護師志望者の意欲をも低下させるものと推測されます。

2) 海外への出稼ぎ: イスラミックホスピタルの医師は、「優秀な看護師はイギリスその他の医療機関でCPU担当などに雇用される」という事例を紹介した。もちろん多くの看護師が湾岸諸国の待遇の良い医療機関で出稼ぎ雇用されている。

3) ヨルダン政府の年金制度: ヨルダンの女性の場合、勤続20年で年金が支給されるので、3K職種&低賃金の看護師を続けるより年金を貰って家事に専念できます。従ってベテランが育たない。

4) 宗教的(?) 慣習: 異性の肌に直接接触れる看護師の職業は社会的に認知されにくい。

—ビデオ製作の意図—

以上のような阻害要素の多い地域での看護師育成には大きな課題が山積しています。

また、当地の医療機関に派遣されている青年海外協力隊員達からも多くの問題が指摘、報告されています。特に、患者に対する接遇が問題であり、プライバシー保護や赤ちゃんや患者、障害者(児)の人権さえ無視した行動が目につくと報告しています。

現役の看護師の意識(モラル)改革や再教育も重要な課題ですが、希望を持って看護教育のコースを選択した若者への「誇り」をテーマとしたモチベーションの高揚は特に重要でしょう。

今回作成するビデオには「学生達の潜在意識の中に介護する事の重要性とそれに従事する誇りを植え付けたい」との強い希望があります。例え卒業生が海外での就業を希望しようとも、パレスチナ難民救済事業の一環として、ひとりでも多くの若者が職を手にすることがUNRWAの設立目的であり、その中でも、優秀な看護師の育成に貢献したいと願っています。

更に、UNRWA傘下の中学校や政府機関の職業高校等における『就職指導』の教材として大きな教育的役割を果たすものと期待します。

私の在任期間の仕事として、特にこの看護師育成訓練コース開設を成功させることと、今回のビデオ製作は「パレスチナ難民救済に対して意義あるものを残したい」との想いで全力を投じてきました。
